

会議名 (審議会等名)	平成25年度 第1回 川西市青少年問題協議会		
事務局 (担当課)	こども家庭部こども家庭室こども・若者政策課 内線(3442)		
開催日時	平成25年8月23日(金)午前10時～11時30分		
開催場所	市役所 4階 庁議室		
出席者	委員	大塩民生、牛尾巧、平岡謙、池添壘(吉塚潤一郎代理)、 細見幸己、岡田八郎、中田 鞆子、鈴鹿成正、中西博、秋山洋煥、矢野孝雄、 高木佳子、澁野敏彦、西田博光、小林勝美、田村嘉規、丸山浩志	
	事務局	こども家庭部長 中塚一司 こども・若者政策課 課長 井口俊也 主査 鳥越永都子 主任 久下泰史 青少年センター所長 杉村浩 社会教育室 室長 柳川明彦	
傍聴の可否	<input checked="" type="radio"/> 可・ <input type="radio"/> 不可・ <input type="radio"/> 一部不可	傍聴者数	0 人
傍聴不可・一部不可の場合 は、その理由			
会議次第	1. 開会 2. 委員の委嘱について 3. 会長あいさつ 4. 協議事項 (1) 副会長の選出について (2) 川西市青少年問題協議会会議公開制度運用要綱の改正について (3) 平成25年度川西市青少年健全育成要綱(案)について (4) 青少年ふれあいデーについて (5) 平成25年度「青少年の表彰」について (6) 平成25年度青少年育成フォーラムについて (7) 支援地域協議会設置に向けたネットワーク体制について 5. その他 6. 閉会		
会議結果	協議事項 (1) 牛尾教育長を副会長に選任 (2) 川西市青少年問題協議会会議公開制度運用要綱(案)を承認 (3) 川西市青少年問題協議会会議公開制度運用要綱(案)を承認 (4) 「青少年ふれあいデー」の取り組みの計画を承認 (5) 平成25年度「青少年の表彰」要綱どおり進めることを承認 (6) 平成25年度青少年育成フォーラムをPTAと共催することを承認 実行委員(「青少年の表彰」選考委員を兼ねる)の選出 (7) 支援地域協議会に向けてネットワーク体制を整えて進めていくことを承認		

## 審 議 経 過 ( 要 旨 )

### 1. 開会 (10:00)

欠席者の確認

- 欠席:・ 中井 成郷 委員 (川西市PTA連合会 会長)  
・ 中村 健次 委員 (川西市子ども会連絡協議会 会長)  
・ 戸松 嘉宏 委員 (川西防犯協会 副会長)

代理出席の確認

代理出席:池添 壘 (吉塚 潤一郎委員 代理)

### 2. 委員の委嘱について

### 3. 会長あいさつ (大塩民生 市長)

### 4. 自己紹介

各委員より所属・名前など自己紹介

事務局の紹介

教育委員会からの出席者の紹介

### 5. 協議事項

協議事項(1)川西市青少年問題協議会副会長の選出について

(事務局)

青少年の健全育成施策について教育委員会との連携を勧案すると、「牛尾教育長」にお願いしたいと存じますが、いかがでしょうか。

牛尾教育長 の 了 承

その後、全委員 の 了 承

協議事項(2)川西市青少年問題協議会会議公開制度運用要綱の改正について(資料1)

川西市青少年問題協議会会議公開制度運用要綱の改正について、本年度より行政組織の再編整備に伴い「こども部」を「こども家庭部」と名称が変わったことで改正を提案いたしました。よろしいでしょうか。

その後、全委員 の 承 認

協議事項(3)平成25年度川西市青少年健全育成要綱(案)について

川西市青少年健全育成要綱の改正について、読み上げて説明(資料2)

その後、全委員 の 承 認

協議事項(4)平成25年度青少年ふれあいデーについて

平成24年度「青少年ふれあいデー」の取り組み概要を説明(資料3)

平成25年度「青少年ふれあいデー」の取り組みを説明(資料4)

- ・地域と一体となった啓発活動の展開
- ・啓発コンクールの実施

- ・「ちょっといい話」の募集
- ・「青少年ふれあいデー」テーマソングの活用
- ・行政が主体となった啓発活動の推進
- ・年度末の認知度調査(年1回2月に実施予定)

テーマソングのプロモーションビデオを上映、紹介する。

意見・質問はなく、提案どおり 全委員の承認

協議事項(5)平成25年度「青少年の表彰」について(資料5)

「青少年の表彰」要綱について提案

「青少年の表彰」の留意事項について、説明。

(委員)

「青少年の表彰」留意事項にある「目立たない善行」「地道な善行」を見逃さないような配慮、工夫すること」とありますが、表彰候補者からもらえる場合の一つ目の には、「その団体の活動そのものが「善行」的意味合いが強く、地域・社会への貢献の動機が薄いと判断するもの」と書かれていて、動機が薄いというのはもらえる理由になるのは理解できますが、「善行」的意味合いが強いので表彰候補者からもらえる場合があるというのは、どのように解釈したらよろしいか。

(委員)

何年も「青少年の表彰」の選考委員になっていたことから、この記述が出てきた経緯を述べさせていただきます。

ボーイスカウト・ガールスカウト等の青少年団体は、「社会の良き公民を育てる、よい市民を育てる」を目的として活動を行っている点で、どうしても善行的な活動の模範的な部分になっています。しかし、その活動(ボーイやガールの活動)の中だけで、善行的な活動をしているのでは、自分たちの団体の活動をただしているだけであり、地域社会に貢献しているとは言いがたいのではないかとボーイスカウトの代表をしている立場からも思いました。

また、過去に幼少期からボーイやガールの青少年団体に参加され、大学生になってリーダーとして団体で活動されるようになったので、この「青少年の表彰」の被表彰者に多数推薦されることがありました。その際に、その時の「青少年の表彰」の選考委員会で、確かに地域活動の中で団体の活動はしているが、それにプラスして地域にどれだけ連携・貢献しているのか、そこを評価しようではないか、もう一段階上のものを求めて表彰するのはどうかと協議しました。

また、ボーイやガールの団委員長が育成したリーダーを推薦するという内々での推薦が以前に多くあがったこともあり、そのような内々で推薦するのではなく、団体の活動を地域が評価して、地域から育成したリーダーを推薦してくるようなかたちが本来のかたちではないかと協議した経緯もありました。そのようなことから、このような記載が出てきたと思います。

(委員)

今までの流れはよくわかりましたが、それでは、留意事項の記載を「活動そのものが、地域・社会の貢献の動機が薄いものと判断する」とした方が、このままでは経緯を知らないと誤解を招くと思いますが、いかがでしょうか。

(事務局)

過去において、先ほど委員が説明してくださいました通り、「善行的活動を目的に活動されている青少年団体からの推薦の際の評価基準」「団体内での表彰推薦が目立ったこと」もふまえて事務局の方で、「留意事項」について検討します。

(会長)

毎年、選考委員会で決定した「青少年の表彰」の候補を第2回の本協議会で審議をはかっていたが、今年に限っては、本協議会開催の時期が遅れた場合は、選考委員会の決定に一任という形をとってもよろしいか。

全委員の承認

協議事項(6)平成25年度青少年フォーラムについて

平成25年度も川西市PTA連合会との共催で行い、「川西市PTCA青少年フォーラム」とすることを提案。

全委員の承認

(事務局)

今年も青少年のことですので、中・高校生の世代に詳しい方ということで、高等学校長会 小林委員と、中学校長会 丸山委員と、川西市青少年団体連絡協議会の澁野委員を推薦したいのですが？なお、青少年育成フォーラムの実行委員になられた委員の方には、「青少年の表彰」選考委員も兼ねていただきますので、その点も合わせてよろしく願いいたします。

全委員の承認

フォーラム実行委員について以下3名を推薦。

- ・市立中学校校長会代表 丸山委員
- ・青少年団体連絡協議会長 澁野委員
- ・兵庫県立高等学校校長会 川西緑台高校長 小林委員

3名の委員の承認

全委員の承認

開催日は平成26年の1月25日(土)文化会館大ホールで行われる予定。

協議事項(7)支援地域協議会設置に向けたネットワーク体制について(資料6・7)

意見・質問はなく、提案どおり 全委員の承認

q

## 6. その他

各団体からの活動報告

- ・川西保護区保護司会
- ・川西地区更生保護女性会
- ・川西市青少年補導委員会(9月から新学期も始まるので川西能勢口で6時ごろから巡回をする)

・LINEについて(川西地区更生保護女性会より)

近年LINEによる青少年のトラブルが多く発生しているので、もっと問題意識を持つ方が良いのではないか。

(委員)

学校では、どのような対応をしているのか。

(委員)

多田中学校では、夏休み前に非行防止の講演の中に、このLINEについて取り上げて学習した。また、宝塚や神戸でLINEによるトラブルが発生していること、いじめ等の問題の発生にもつながっていることから、注意はしている。しかし、保護者が責任をもって契約していることでもあるので、どうしても家庭に任せる部分が多くなる。そのため、指導の徹底が難しい面もある。

(委員)

川西小学校でも、養・小・中学校長会の生徒指導担当の立場から、情報教育の際に必ず「情報モラル」について学習をしている。しかし、2年前までは携帯を持っている児童が4人に1人の割合から、昨年度は、3人に1人になっている現状からも、この問題は年々深刻化してくると思う。しかし、保護者が了解し、携帯を保持しているので、なかなか学校がきまりを取り決めることはできず、しかし、一方で問題が起こると学校に指導を訴えるという事が多く、学校としても対応に困っている状態である。

(委員)

最近では、スマホだけでなくゲーム機やiPod等からもLINEに参加できることから、子どもは、親のiPodを借りてそのiPodからLINEに参加し、それを保護者は知らずにトラブルになって初めて知るというケースも多く、スマホや携帯だけでなく、インターネットにつながる媒体全般(ゲーム機・iPod等)に考える必要がある。

(委員)

学校での指導にも、親が同席で指導すべきである。親自体がLINEの内容を知らないのも、その良さや怖さを認識できていないのではないかと思う。

(委員)

学校だけの対応には限界がある。やはり契約時に、企業も保護者や子どもに対して厳しい契約・指導をするなど、企業に対しても動きを出してもらわないと学校としても指導が難しい部分がある。運転免許証では無いが、そのような免許的なものも必要になるのではないかと個人的には思います。

・8月21日に起った山下駅周辺での女子高生切り付け事件について(川西市体育協会委員より)

(委員)

8月21日に起った山下の女子高生切り付け事件のその後の情報はありますか。

(委員)

8月21日(水)午前7時20分ごろ、山下町2-16の住宅街で県立高等学校でサッカー部のマネージャーをしている女子生徒が、祖母宅に自転車で行き様子を確認した後、祖母宅に自転車を置いて徒歩で山下駅に向かう途中に、背後から近寄ってきた25歳前後の中肉中世の男性に突然腕をつかまれ、ボールペンのようなもので15センチほどの長さの傷を3本つけられた。ただ、被害の時にヘッドホンをしていたので、犯人が何か言っていたがわからないことや、視力が0.8程度でしっかりと顔が見えなかったことで、似顔絵も作成できていない。

山下近辺では、以前に同様の事件はなく、今後も捜査中で、通り魔的な犯行のため、他の地域でも気をつけてもらいたい。

7.閉会(11:30)

事務局あいさつ。